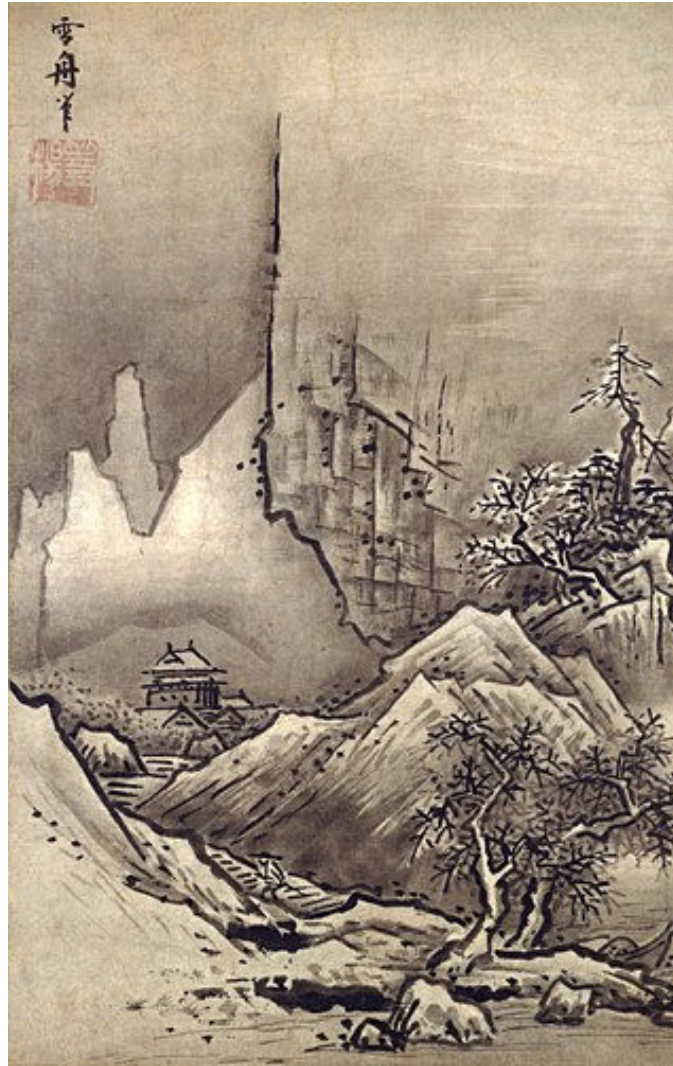


一年	国語	G アップシート	書く1
----	----	----------	-----

組 番・氏名

★絵画の鑑賞文を書く

◇美術作品の魅力について深く考えるために、気に入った作品を選んで鑑賞文を書くことになりました。山内さんは『雪舟筆 秋冬山水図のうち冬景』を選んで鑑賞文を書くことにしました。



雪舟筆 秋冬山水図のうち冬景

問一 鑑賞文を書くときの観点に沿って、絵から読み取れることを付せんに書き出していきました。それぞれの付せんに書いたものはどんな観点で書いたものか。後のア～エから選びなさい。

【様々な角度からその作品のよさについて考える】

A ・手前から川↓岩↓建物↓
山↓空と奥に向かつて空
間が広がっている

B ・川のせせらぎ
・風もなく静か

C ・全体に明るく描かれた部
分が少なく、どんよりし
た感じ

D ・寂しげな雰囲気
・動物など動くものがな
く、静寂を感じる



ア 印象
イ 構成
ウ 音
エ 色彩

A	
B	
C	
D	

問二 山内さんは自分の感じた作品の魅力(みりよく)を『冬の自然の静けさ』ととらえ、その具体的な根拠(こんぎょ)を付せんの中から探しました。山内さんの鑑賞文(かんしょうぶん)の根拠(こんぎょ)となりそうな内容を問一のA〜Dから二つ選びなさい。

【作品のよさを挙げて要素(ようそ)ごとに整理する】

--	--

問三 鑑賞文(かんしょうぶん)を書く前に構想メモ(こうしやうめい)を作り、文章(ぶんしやう)の組み立てを考えました。メモの空欄(くうらん)には構成(こうせい)を考える際の項目名(こうもくめい)が入ります。それぞれに入る項目名(こうもくめい)をA〜Eから一つずつ選びなさい。

【段落(だんらく)の役割(やくわい)を考えて文章(ぶんしやう)を構成(こうせい)する】

構想メモ

順番(じゆんばん)	項目名(こうもくめい)	内容(ないよう)
①		<ul style="list-style-type: none"> 絵(え)の中には動き(うごき)が感じ(かんじ)られない 絵(え)の中には音(ね)も感じ(かんじ)られない
②		<ul style="list-style-type: none"> 自然(しぜん)を描(えが)くことで人間(にんげん)の存在(そんざい)について考え(かんが)させる
③		<ul style="list-style-type: none"> 動くもの(うごくるもの)がない 音(ね)を出すもの(だすもの)がない <p style="text-align: center;">)人間(にんげん)が描(えが)かれていない</p>
④		<ul style="list-style-type: none"> 悠久(ゆうきゆう)の自然(しぜん)と浮(う)き沈(しず)みする人(ひと)の世(よ)について考え(かんが)させる

ア 魅力(みりよく)の根拠(こんぎょ)
 イ 印象(いんしやう)
 ウ 鑑賞(かんしょう)のまとめ
 エ 感じ(かんじ)た魅力(みりよく)

山内(やまうち)さんの書いた鑑賞文(かんしょうぶん)と合わせて考えてみよう。



◇山内さんはメモをもとに鑑賞文を書きました。

「秋冬山水図のうち冬景」の魅力

耳を澄ませても何も聞こえない。目をこらしても動くものは何も無い。この絵には冬山の静けさ、寂しさ、わびしさ、そういったもの全てが凝縮され、それがとてもすごいよさとなって、①見る者を絵の中に引き込む力を持っている。

この絵の魅力は「自然に対しての人間の存在について考えさせる」ところにあると思う。この絵の何が、私たちをそういう気持ちにさせるのだろう。

まず、絵を見たときに、②人間や生き物など動くものが何も描かれていないことに気づく。川は流れているのかもしれないが、この絵から流れを感じることはできない。動きのない風景が広がるが、それでも時間は過ぎ去っている。そう感じさせることが、常に変化し続ける私たちとの対比となる。次に、この絵から聞こえてくる音に注目してみる。川の音は聞こえるだろうか。木々が揺れて葉がこすれる音は……。感じられるのは静寂だけである。ここでも、動いたり話したりして音を出し続ける人間の存在とのギャップがあらわれる。

このように、雪舟は冬山の静けさを描くことで、対比的に人間を描いたのだと思う。人間の存在しない空間にも自然は存在し続けており、それは人間のできることで、生きられる時間を遙かに超えた存在である。そう感じさせることで、人間自身の存在について考えさせたかったのではないだろうか。



問四 山内さんは、とてもすごい部分を工夫した表現に変えたいと思いました。どのような言葉が適切でしょうか。ア～エから選びなさい。

- ア いきいきとした
- イ しみじみとした
- ウ 晴れ晴れとした
- エ ほのぼのとした

【多様な語句を文脈に応じて使い分ける】

問五 線①、②の記述は、どんな内容を扱った記述か。それぞれア～オの中から選びなさい。【作品のよさについて、表現の仕方を明確にして書く】

- ア 作品の表現の対象について
- イ 作り手の思いや見方について
- ウ 受け手の印象や感動について
- エ 作品の作られた時代について

①	
②	

問六 山内さんはこの文章を推敲して、根拠を書いた段落を、さらに二つの段落に分けた方が読みやすいことに気づきました。二つめの段落の最初の五字を書き抜きなさい。

【推敲して、自分の考えた作品のよさやその根拠が伝わりやすい文章にする】

◇学び合いのために、できあがった鑑賞文を読み合いました。

問七 森野さんは「根拠を明らかにして作品の魅力伝えてるか」という点に注意しながら山内さんの鑑賞文を読み、意見を述べました。ねらいにそった意見として最も適切なものをア～エの中から一つ選びなさい。

【作品のとらえ方や根拠の明確さなどについて意見を述べる】

- ア 印象や音など観点を絞って作品を鑑賞し、そこから考えたことをもとに作者の表現したいことに対する自分の意見を述べているのがいいと思いました。
- イ 細かいところまで絵の様子をいきいきと表現していて、実際に見なくても絵の情景が浮かんでくるようです。
- ウ 作品から感じた静寂さであったり静けさであったりという魅力を、自分なりの表現で丁寧にまとめているのがいいと思いました。
- エ 想像を広げながら作品を自分なりに解釈し、他の絵との比較から作者の思いを丁寧に表現しているのいいと思いました。

--

【書く1 絵画の鑑賞文を書こう】

問一	A…イ	B…ウ	C…エ	D…ア	問二	B、D
問三	①イ	②エ	③ア	④ウ	問四	イ
問六	次に、この	問七	ア		問五	①ウ ②ア

解説

問二 「静けさ」をとらえる時には、実際の音だけでなく、その場の物の動きにも注目します。動きの少ない物もほど静かに感じられます。

問三 実際に文章を書き始める前に構想メモを作ると、書くときに悩まず書くことができます。また、書いているうちに自分の考えが脱線することもなく、最初から最後まで筋の通った文章にすることができます。構成メモを作る際の基本構成としては

頭括型・・・最初に意見を述べる

尾括型・・・最後に意見を述べる

双括型・・・最初と最後に意見を述べる

の三つがありますので、どれかを選んで自分の意見を整理してみましよう。この構成は尾括型で、絵を見た第一印象から始まり、中間に具体的な話がきています。

問四 鑑賞文の中の「静けさ」「寂しさ」といったものに注目すると、元気だったり明るかったりというイメージではないことがわかります。

問六 話題の変わる部分では段落を変えるようにします。根拠を述べる段落であったとしても、根拠の内容が変わる場合は段落を変えるようにすると、読み手が理解しやすくなります。ナンバリング（一つめは、二つめは等）、接続する言葉（まず、次に等）、書いてある例の変わり目などもポイントです。

問七 ねらいを決めて感想を述べるときには、自分の言いたい感想ではなく、ねらいにそった感想を言うように意識します。今回は「根拠を明らかにして作品の魅力を伝えていくか」について意見を述べるのがねらいですが、ウは根拠について触れられていません。イ、エは山内さんの鑑賞文の内容とずれています。